

トビウオ通信 (1月号)

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/>

(TEL 0855-22-1720)

《平成 15 年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業（かけまわし）

島根県の小型底びき網漁業（かけまわし）59 隻*の平成 15 年漁期前半（平成 15 年 9 月 1 日～12 月 29 日）の総漁獲量は 2,141 トン、総水揚げ金額は 8 億 8,638 万円でした。1 隻当たり漁獲量は 36.3 トンで、平年（10 年平均）を 7%、また水揚げ金額は 1,502 万円で、平年を 23% 下回りました。

今漁期は、休漁明け当初よりエチゼンクラゲの大量発生による操業回数の減少、漁具被害（破網）、また 12 月には時化による出漁日数及び操業回数の減少により、総体的に低調に推移しました。

* 当漁業における島根県全体の操業隻数は 60 隻ですが、統計は 59 隻分の集計です。

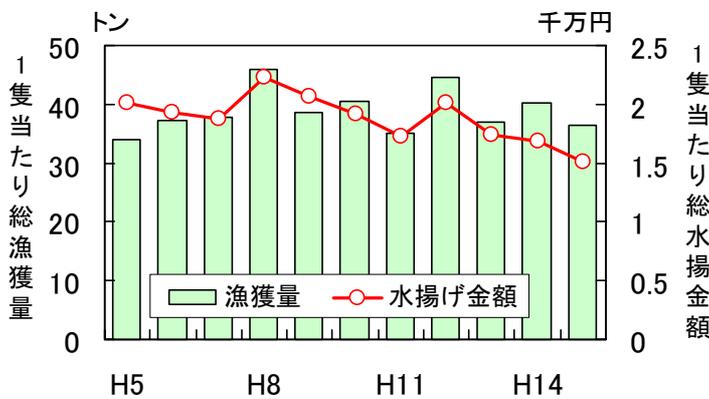


図 1 小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量・水揚げ金額の動向

カレイ類低調

近年増加傾向にあったソウハチの 1 隻当たり漁獲量は 1.6 トンで、前漁期を大きく下回り、平年の 1/2 の水揚げとなりました。一方、近年資源的に安定しているムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 2.0 トンで平年を 25% 下回りました。また、近年増加傾向にあるヤナギムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は平年を 15% 下回る 0.4 トン、メイタガレイの 1 隻当たり漁獲量は平年を 19% 下回る 0.4 トンでした。カレイ類全般、漁期前半は平年を下回り、低調に推移しました。

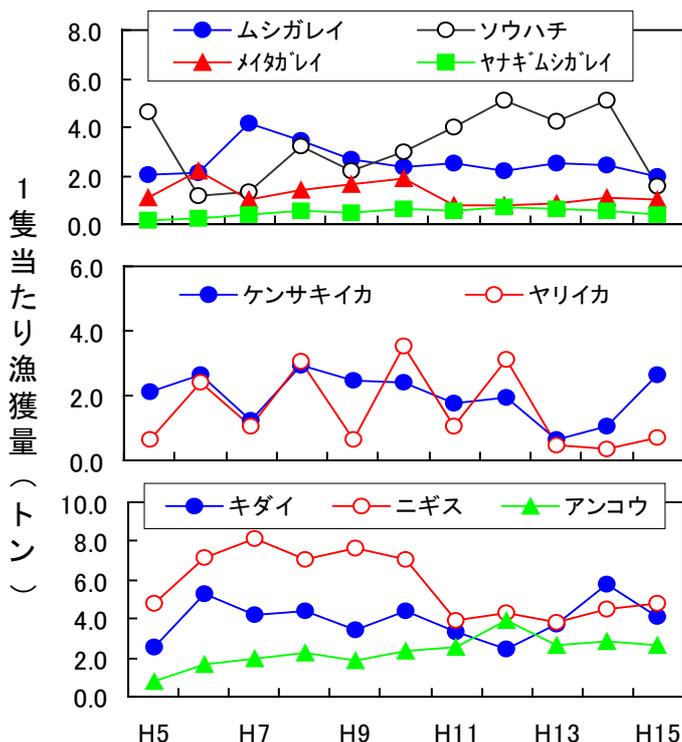


図 2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

ケンサキイカ好調!

ケンサキイカの 1 隻当たり漁獲量は 2.7 トンで、前漁期の 2.5 倍、平年の 1.4 倍の水揚げがあり、平成 8 年に次ぐ高い値となりました。また、前漁期不漁であったヤリイカの 1 隻当たり漁獲量は 0.7 トンで、前漁期の約 2 倍の水揚げとなっていますが、平年の 43% に留まっています。

ケンサキイカの秋漁は好調に推移しましたが、ヤリイカは 3 年続けての不漁年となっています。

アンコウ好調!

ニギスの 1 隻当たり漁獲量は 4.8 トンで、平成 11 年以降低調ながらも 4 トン前後で推移しています。キダイの 1 隻当たり漁獲量は平年をわずかに上回る 4.1 トンの水揚げがありました。また、アンコウの 1 隻当たり漁獲量は 2.6 トンで前年をわずかに下回りましたが、平年を 15% 上回りました。

この他、今漁期はイボダイの水揚げが急増し、1 隻当たり漁獲量は 3.8 トンで、過去 5 年平均の 2 倍、平成 10 年以降最高の水揚げとなりました。

沖合底びき網漁業(2そうびき)

県西部

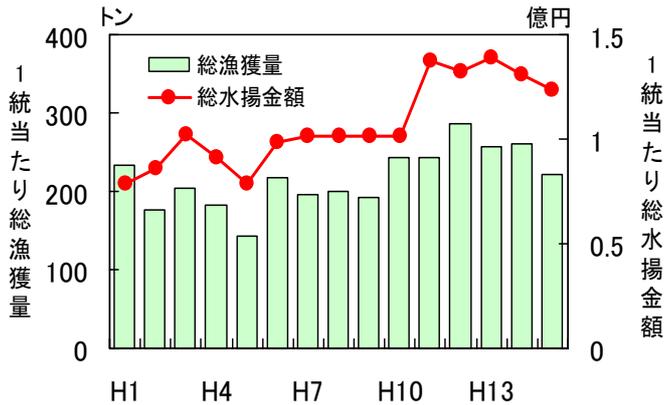


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量・水揚金額の動向

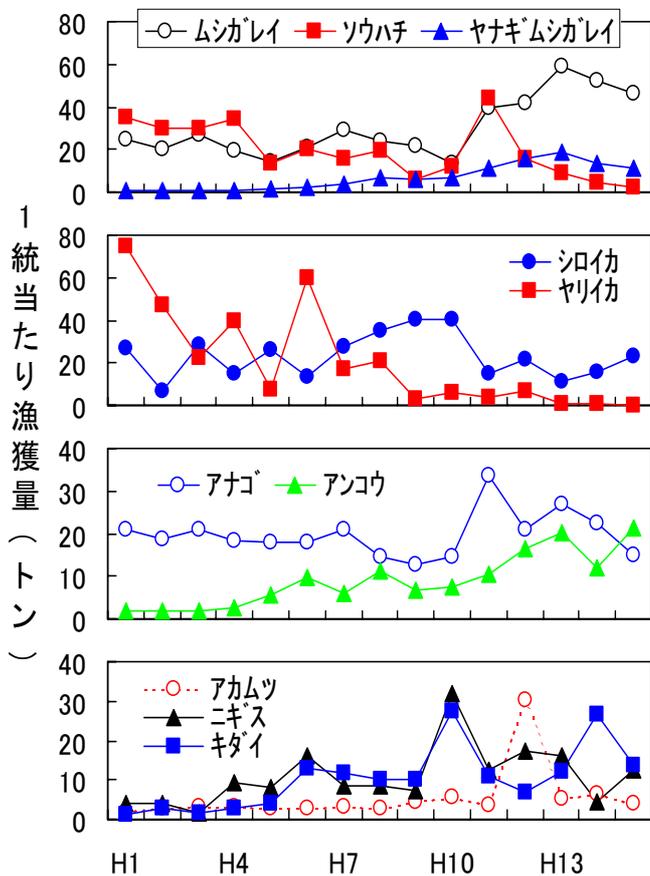


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向

揚げ金額は1億3百万円で前漁期の86%に留まりました。

アンコウ好調！ムシガレイ・ヤナギムシガレイ平年を上回る

ムシガレイの1統当たり漁獲量は25トン(前年比89%)、ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は36トン(前年比99%)で、前漁期を下回りましたが、平年の1.4~2.1倍の水揚げがありました。また、キダイの1統当たり漁獲量は14トン(前年比82%)、アナゴ類の1統当たり漁獲量は11トン(前年比67%)で、前漁期、平年(33~27%減)を大きく下回りました。一方、アンコウは好調に推移し、1統当たり漁獲量は31トンで、前漁期の1.7倍、平年の2.3倍の水揚げがありました。

浜田沖底同様、エチゼンクラゲの影響を受け、全般的に低調に推移しました。

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業(操業統数7ヶ統)の平成15年漁期前半(平成15年8月15日~年12月29日)の総漁獲量は1,553トン、総水揚金額は8億6,554万円でした。また、1統当たりの漁獲量は222トンで前漁期を15%、平年(過去22年平均)を8%下回りました。水揚げ金額は1億2,365万円の前漁期を5%下回りましたが、平年を20%上回っています。

漁期前半は小底同様にエチゼンクラゲ、時化の影響により低調に推移しました。

カレイ類低調

ムシガレイの1統当たり漁獲量は46トン、前漁期を11%下回りましたが、平年の1.6倍の水揚げでした。ソウハチの1統当たり漁獲量は3トンで、過去最低であった前漁期をさらに下回り、平年の13%の水揚げに留まりました。また、ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は11トンで、前漁期を17%下回りましたが、平年の2倍の水揚げでした。

ケンサキイカ秋漁好調！

ケンサキイカの1統当たり漁獲量は23トンで、前漁期を47%上回りましたが、平年を13%下回りました。一方、ヤリイカの漁獲は近年、特に低迷し、今漁期はわずか0.1トンしか漁獲されませんでした。平成に入り、急激に漁獲は減少し、昭和56年以降最低の水揚げとなりました。

アンコウ好調！

アナゴの1統当たり漁獲量は15トンで、前漁期の66%、平年の77%の水揚げでした。また、増加傾向にあるアンコウの1統当たり漁獲量は21トンで、昭和56年以降最高の水揚げとなりました。キダイの1統当たり漁獲量は14トンで、前漁期の1/2の水揚げとなりました。また、アカムツの1統当たり漁獲量は4トンで、平年の8割程度の水揚げとなりました。一方、ニギスは前漁期の2.8倍、平年の1.2倍に当たる12トン水揚げとなりました。

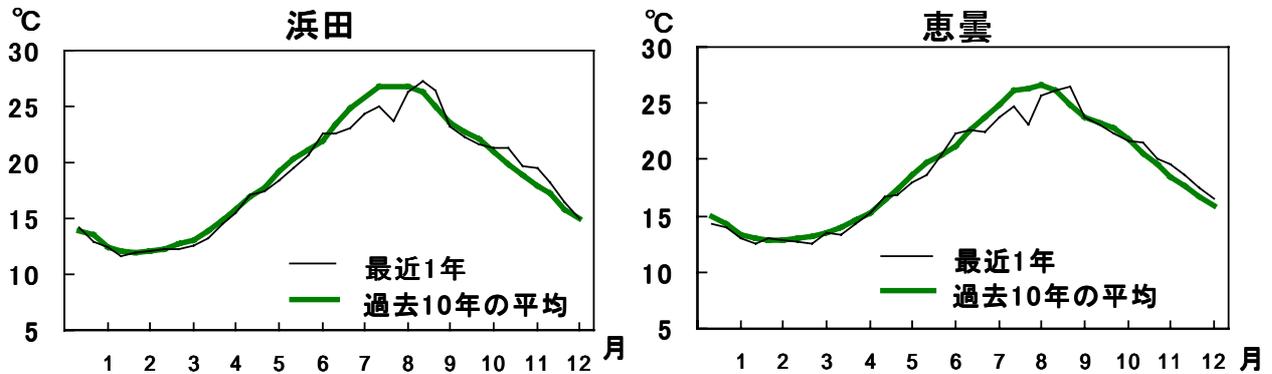
県東部

恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業(3ヶ統)の平成15年漁期前半の総漁獲量は478トン、総水揚げ金額は3億1千万円でした。また、1統当たりの漁獲量は159トンで前漁期を9%、平年を18%下回りました。水

《 12月の海況 》

12月	月平均	平年差	評価
浜田	16.6	+0.5	平年並み
恵曇	17.6	+0.8	やや高め

12月の月平均水温は11月に比べ浜田で3.6、恵曇では2.9 下降しました。浜田、恵曇とも平年を上回っていました。



《 12月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量は、サバ類、マアジ主体に547トン、総水揚金額は5,022万円でした。1統当りの漁獲量は182トンで、平年(過去5ヵ年平均)の59%、前年の75%となりました。水揚金額は1,674万円で、平年の55%、前年の71%でした。西郷では、ブリ、ウルメ、マアジ主体に総漁獲量4,355トン、総水揚金額は3億4,159万円でした。1統当りの漁獲量は726トンで、平年の156%、前年の197%となりました。水揚金額は5,693万円で平年の138%、前年の111%となりました。浦郷ではマアジ、ブリ、サバ類主体で、総漁獲量1,099トン、総水揚金額は6,947万円でした。1統当りの漁獲量は726トンで、平年の101%、前年の152%となりました。水揚金額は1,737万円で平年の91%、前年の91%となりました。隠岐地区ではマアジが好調となっています。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカ、ケンサキイカを中心に9.1トンで、平年(過去5ヵ年平均)の45%、前年の94%となりました。ケンサキイカは12月としては比較的好漁で、平年の2.6倍の水揚となりましたが、この時期主体となるべきスルメイカは、平年の40%と不漁となりました。日本海でのスルメイカ資源が比較的少なかったこと、さらに、秋～冬にかけての南下経路が韓国沿岸域に形成されたことなどにより、秋冬の島根県沿岸域でのスルメイカ漁は不振となっています。浜田に水揚げされたスルメイカは20入り主体、ケンサキイカは2段半～3段が主体となっています。

【沖合底びき網漁業】

浜田ではムシガレイ、恵曇ではアンコウ、キダイ主体の水揚げとなっています。1統当たり漁獲量は両漁協とも前年を約20%下回りましたが、水揚金額は浜田では前年を11%上回り、恵曇は18%下回りました。両漁協ともにアンコウは依然好調に推移し、前年の1.8倍、平年の2.6～3.1倍の水揚げとなっています。一方、浜田ではソウハチ、キダイが、恵曇ではアナゴ、カワハギ類、ヤナギムシガレイが低調に推移しました。

【小型底びき網漁業】

和江・大田市両漁協では、時化の影響により出漁日数が前年に比べ2割減少したため、量・金額は前年を14～

20%下回りましたが、1航海当たりの漁獲量は前年を6~9%、金額は前年を7~15%に上回りました。和江漁協ではアンコウ、キダイ、ソウハチ、ニギスが、大田市漁協ではニギス、ソウハチがまとまって漁獲されています。特に、ニギス、アンコウは前年の1.3~3.5倍の漁獲があり、好調に推移しましたが、ソウハチについては前年の4~6割の漁獲に留まっています。

【定置網漁業】

県東部では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を下回りました。県西部では漁獲量・水揚金額ともに前年を上回り、平年並みとなっています。隠岐では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を下回りました。県東部と県西部ではブリが主体で、県東部ではその他にサワラ類、ソウダガツオ、ヒラマサなどが漁獲されています。県西部ではサワラ類、マアジ、ソウダガツオなどが漁獲されています。県東部と県西部のサワラ類は前年の約3~7倍の漁獲となっています。隠岐ではスルメイカが主体で、前年の約2倍の漁獲となっています。その他ではマアジ、ブリ、サハ類などが漁獲されています。

【釣・縄】

県東部では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を上回りましたが、県西部と隠岐では漁獲量・水揚金額ともに前年を下回りました。県東部ではサワラ類、ブリを主体にケンサキイカなどが漁獲されています。県西部ではメダイを主体にブリ、ヒラマサ、ケンサキイカなどが漁獲されています。県東部と県西部のケンサキイカは前年の約30倍の漁獲となっています。隠岐でもメダイが主体で、その他ではスルメイカ、ソデイカなどが漁獲されています。スルメイカは前年の約4倍の漁獲となっています。

漁獲統計

平成15年12月1日~31日

漁業種類	水揚港	延隻数・ 統数	主要魚種	1隻(統)1航海 当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	17	サハ類・マアジ	32.2ト	547ト
	西郷	96	ブリ・ウルメ・マアジ	45.4ト	4,355ト
	浦郷	36	マアジ・ブリ・サハ類	30.5ト	1,099ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	60	スルメイカ・ケンサキイカ	152Kg	9.1ト
	西郷	-	-	- Kg	-ト
沖底	浜田	35	ムシガレイ・キダイ・アンコウ	10.3ト	359ト
	恵曇	27	アンコウ・キダイ	3.8ト	104ト
小底	大田市	188	ニギス	519Kg	98ト
	和江	287	アンコウ・キダイ	644Kg	185ト
定置網	浜田	25	ブリ・マアジ・カワハギ類	604Kg	15.1ト
	美保関	93	マアジ・スズキ・ソウダガツオ	307Kg	28.6ト
	浦郷	41	スルメイカ・ブリ・マアジ	449Kg	18.4ト
釣・縄	浜田	610	メダイ・ブリ・サワラ類	36Kg	22.0ト
	五十猛	237	ヒラマサ・ケンサキイカ・メダイ	19Kg	4.5ト

：1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量÷延隻数・統数で算出しており、四捨五入した値です。

：西郷のイカ釣りは漁協合併に伴うシステムの変更のためデータが集計できませんでした。

【訂正】先月号の「11月の漁況」で浜田のまき網の総水揚金額(5億9,089万円)と1統あたりの水揚金額(1億9,697万円)はそれぞれ5,909万円、1,970万円の誤りでした。お詫びして訂正いたします。